



人が集い、交流が生まれる活力と魅力あるまちづくり ● 商工観光

美馬市のにぎわいは、商工業や観光が担っている。人が集う商店街、物が集まり、どんどん製品が出荷される工業。笑顔があふれている観光地。どうしたら、美馬市をもっとにぎやかにできるのでしょうか。今度は、商工観光の仕事を探ります。

Q 美馬市のにぎわいは、どうしたら作れるでしょう。



オダン座

大型店舗などが建ち、にぎやかになりましたが、逆にそれまでの商店街は空洞化が進んでいます。これによって、地域全体の活力も下がってしまっています。そこで、ふれあいのある魅力的な商店街づくりを考へなければなりません。美馬市の名所旧跡を結ぶ観光ルートを整備したり、体験型・滞在型の観光振興も必要です。

また、工業では、市場の開拓や新技術の開発を支援します。新産業を育て、地場産業を活性化し、優良企業の誘致も進めます。こうして、雇用の確保を行い、みなさんがいつまでも住み続けたい美馬市でなければなりません。

そうした美馬市の観光や製品をブランド化し、インターネットやふるさと会なども通じて、全国的にPRすることも大切です。

Q にぎわいという言葉で思い出すのがイベントですが、美馬市の観光イベントについて教えてください。

A 例えば、「美馬市合併一周年記念事業」や「うだつの町並み振興委員会」を設立し、平成17年に行われた人気時代劇「水戸黄門」ロケにちなんで「うだつ黄門まつり」を開催することにしました。

また、「脇町劇場」を舞台上演される毎年恒例のお芝居は、旅行エージェンシ

ーと連携して県外からもお客様にお越しいただいています。ほかにも穴吹川筏下り大会や四国三郎の郷サマーフェスティバル、緑のふれあい夏祭りなど、魅力的なイベントがある美馬市を大いにアピールしたいと思っています。

「特派員コメント」

うだつの町並みや脇町劇場、寺町や吉野川、剣山や穴吹川、すばらしい場所がたくさんある美馬市。西照神社の神楽や三味線もちつきなど、興味深い行事や芸能もたくさんあります。日本中、世界中の人に來てもらいたい美馬市です。

Column (コラム)

穴吹銀座通り 知友会



代表 篠原 勝彦さん

穴吹の商店街復活を願って、人々に喜んでいただけるイベントを手づくりで開催しています。メンバーは約50名、それぞれの能力を活かしたボランティアの取り組みに、市外県外の方も賛同くださり、華やかなイベントとなりました。平成17年、18年は「穴吹銀座会夏祭り阿波おどり大会」を開催し、大勢の人が詰めかけてくれました。現在は知友会として活動を続けています。



阿波おどり(うだつの町並み)